

## 【戦略的アウトソーシング導入事例】

### 【当初の課題】

- ・リース・情報通信業を営む A 社、企業規模の拡大により経理業務が毎年増加傾向にあり、現在の業務体制では限界に達していた。
- ・そのため、決算業務は経理担当者個人に集中しており、担当者以外は決算業務を把握していなかった。
- ・上場を検討しているため、今後さらなる開示の透明性・迅速性を高める必要性があった。

### 【アプローチ】

#### ① 現状把握

- ・代表者・各事業部課長から各種業務フロー及び決算手続についてヒアリングを実施
- ・各種決算資料の閲覧・整合性のチェックを実施
- ・会社の現状及び抱えている問題点を整理し、改善すべき課題を報告

#### ② 対策案の検討・提案

【企業規模に適応した業務体制の構築を検討】

検討事項	提案事項
決算業務の“見える化”	・業務フローの整理・運用支援 ・決算マニュアルの作成・運用支援
決算作業の分散 (会計・税務アウトソーシングの導入)	・個別財務諸表作成支援(親・子会社) ・税務申告書作成(フルアウトソース) ・連結財務諸表作成支援 ・開示資料作成支援 ・会計監査対応アドバイス

\*導入時のアウトソーシングについては、お客様のオフィスで共同作業という形で支援を実施(税務申告書を除く)。2期目からは、当社での作業を実施。

#### ③ 実施後の成果

“決算業務の見える化”により
・経理業務の不透明性を整理し円滑な業務フローの構築を実現
・社内での重要業務(コアコンピタンス)とアウトソース可能な業務を整理
”決算業務の分散” — 会計・税務アウトソーシングの導入により —
・経理担当者への業務集中を緩和することで決算早期化を実現
・アウトソーシングの導入により外部牽制機能が付加
・継続的なPDCAサイクルによる業務改善の実施により更なる効率化を実現